

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	鈴木ヘルスケアサービス (株)	代表者	鈴木 則成	法人・事業所の特徴	ご利用者の地縁を守り、慣れ親しんだ地域・居場所で生活を続けられるようお手伝いします。ご本人の思いや願いに寄り添い、24時間365日「その人らしい暮らし」を支え、「通い」「訪問」「お泊まり」の3つの基本サービスを組み合わせご利用いただけます。また、どのサービスにおいても、顔馴染みのスタッフがサービスをご提供するため、知らないスタッフが急に自宅に来たなどという不安もなく、安心してご利用いただけます。
事業所名	小規模多機能ホーム 鈴の郷	管理者	常 奈緒美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画 (案)
A. 事業所自己評価の確認	ケース会議として、担当者を中心に各利用者様のサービス内容の統一を図り意見を出し合う中で、各スタッフの思いを聴き合い、鈴の郷全体の意思統一を行う。	ケース会議について、ケアのばらつきが見られたり、大きくケアの内容が変わる際には実施していたが、定期的な見直しがおこなわれていない。	利用者様ご本人からの意見の収集方法を別途企画・実施するのもいいのでは。(目安箱形式など)	継続してケース会議等の開催にてケア内容の検討、見直しをするとともに、事業所内に関する提案を、より容易に発信、把握できるような様式を普及させる。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所に入りづらい点に対し鈴の郷の手作り看板や花壇園芸によって、少しでも気軽に出入りできる環境を整える。	花壇園芸は行っている。手作り看板は現在新しい物を作成する予定です。	特になし	施設外側の使い方の再検討。利用者様の作品等を保存した状態で外に掲示できる工夫を検討。
C. 事業所と地域のかかわり	地域サロン参加の慣例化、複数のサロンへの体験参加。	隣接するデイサービスセンター鈴の音で毎月開催されているぴーちくばーちくを当施設内で開催するようになったが、地域へのサロン参加までには至らなかった。	実際にこの鈴の郷の活動内容を、地域の方は一部しか知られていない。(併設するデイサービスセンター) 鈴の音との違いからして分からない。	自治会回覧へ広報を出し、地域の方が出入りいただける行事の企画など、地域の方が鈴の郷に来ていただける機会を増やす。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	鳥居本だけでなく、各地域に住まわれている利用者様の緊急事態への対応を検討する。 運営推進会議にてこれらの活動も報告していく。	鳥居本内においては緊急事態や、鈴の郷で対応できない点も家族・地域との連携を検討できるようになってきたが、鳥居本外においては達成できず。	特になし	鳥居本外の情報収集力がほぼないので、地区外の民生委員さんとの関係づくりから始め、社会資源をリサーチしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	随時活動報告を発表していく。 運営推進会議毎にサービス評価のテーマを分けて検討していく。	運営推進会議内でテーマ検討を実施できた。 参加者が少なく、自治会の参加も当該地区のみなのが課題	特になし	運営推進会議に出てきてもらえる研修など企画するとともに、それを広報で発信していく形ができるよう進めて行く
F. 事業所の防災・災害対策	防災士さんと連絡を取り、勉強会を企画する。 地域より安心して避難できる場所として頼られているので十分な対応を。	防災士さんとの勉強会は実施できず。 地区の防災訓練へ積極的に参加することで、交流と連携が出来てきている。	特になし	防災士さんや警察官さん、消防士さん等に研修をお願いし、地域の方にも参加を募る。